

# 岩柳かわらばん

よみうり大好き!

毎週、水・土曜に  
お届けします

柳井学園高2年生

## 能楽

柳井市の柳井学園高(内田晃校長、約240人)の2年66人が総合的な学習の時間を使って練習した「能」を、21日、柳井市のアクティブやないで発表する。本番を前に、生徒たちも真剣そのもの。独特の地謡の節回しや、濃とした所作の一つ一つに神経を集中させる稽古が続いている。

本番を控え、猛練習する男子生徒たち



## に挑戦

## 稽古に神経集中



扇を手に稽古するワキを務める女子生徒たち

### 「舞難しい」「透き通る声出せたら」

生徒たちに練習の感想を聞いた。

シテの藤村裕一君(17)は「とにかく動きを聞



練習に真剣な表情。助け合って稽古はく光景も

### 指導者 大島文恵さん、自分の「静」ぶつけて

導えないように、考えながら言おうと難しいけど、せりふは大きな声で、福本彩子さん(17)は「舞が難しい。舞と舞をきくと覚えたい」、安室咲さん(17)は「先生のお手本を聞いて、先生みたいに透き通ってちょっとふるえているような声が出せたら」と意欲を見せる。

地謡の斉藤篤志君(17)は「音程を合わせるのに気を使う。恥をかかないようにしたい」、小川洋右君(17)は「謡といって



大島文恵さん

柳井学園高では、総合的な学習の時間を利用して、日本の伝統文化に親しんできた。現在の3年生は2年の時に、浴衣を縫ったほか、能楽師の安田登さん(東京)から指導を受けた。

今年17年生が「はじめての能楽体験」として取り組む。昨年11月から、計10回の稽古をこなして、舞台に臨む。

指導は、能楽喜多流大島能楽堂(広島県福山市)の大島衣恵さん(31)、文恵さん(28)、紀恵さん(25)姉妹。

演目は、中国の伝説をも

### 喜多流3姉妹が指導



大島紀恵さん

この日は、衣装をつけて稽古。3年生が昨年作った浴衣と、弓道などの袴を着て、能楽の衣装の雰囲気に近づけていた。

稽古のモデルに選ばれた青草琢磨君(17)は「初めてで、結び目が苦しいけど、身が引き締まる感じがする」。着物を、自分で着るのは初めてという生徒も多く、帯の結び方などに悪戦苦闘。「本番では、自分



慣れない浴衣を着付けてもらう男子生徒

### 21日披露

アクティブやない

学習の集大成は、21日午後1時半から、アクティブやないで。第一部は、大島文恵さんが「能のお話」と題して解説。第二部が、「狸々」の舞台だ。入場無料。問い合わせは、同校(0820・22・0294)へ。

も最近の歌と違う。難しいけど、自分のできることをやる」

ワキを務める松村愛子さん(17)は「家でも、家族の前で練習しています。当日は、家族が来ます。難しいけど、みんなの足手まといにならないようにしたい」、遠山舞さん(17)は「声が低いのが難しい」と話していたが、伝統芸能への挑戦に、みんな意欲高々だった。

大島文恵さんは「自分の持っている『静』のエネルギーをぶつけて舞台が生きてくると思っています」と本番に期待していた。